

令和元年度第2回京都市事務事業評価委員会からの意見に対する見解・対応について

No.	事務事業名 [事業所管局]	評価委員会からの意見	指摘事項に対する見解と対応
1	円山コンサート (文化市民局)	指定管理者も含め、本来は民間で実施されるべき性質の事業であるように思う。したがって、市で実施するのであれば、最低限、受益者負担で費用を捻り出する等、市の費用負担をなくすべきである。本事業が高い集客を達成し、観光消費の増加や老朽化した円山公園音楽堂の活性化に寄与していることは理解できるが、現状の市場価格からのチケット代の安さを考えると、明確に円山公園音楽堂の修繕費用として千円程度をチケット代に上乗せしても良いと思われる。	令和元年度に、消費税及び地方消費税の税率が引き上げられたことに合わせて入場料金を100円程度値上げしたところであるが、令和2年度の実施に際しても、受益者負担を念頭に料金の見直しを検討する。
		京都市として事業を継続していくのであれば、京都市がこのコンサートを主催する意義をきちんと整理し説明することと、市の財政的な持ち出しを極限まで無くすことが必要である。	毎年2千～3千人程度の方が来場される、本市施設円山公園音楽堂の最大のイベントである。来場者の満足度も非常に高く、円山公園音楽堂の活性化にも寄与していることから、本市が主催する意義は十分にあると認識しており、引き続き事業の魅力や意義をしっかりと発信する。 また、令和2年度には、チケット販売を委託事業者に任せ、委託料を削減するなど、財政負担の軽減を踏まえながらも事業の魅力を損なわないよう実施する。
		円山公園音楽堂の次期指定管理者選定の際に、本事業を指定管理業務に組み込むことも検討してはどうか。	現在の指定管理期間は、令和5年3月31日までであることから、令和5年4月1日からの次期指定管理期間に向けて検討を行う。
		施設のキャパシティーに達する人数まで集客するために販促を行うべきであるのに、目標達成度評価の「チケット売上枚数」の目標値を年々通減させることは適切ではなく、改めるべきである。	次回の目標値設定について見直しを行う。
		円山公園音楽堂の活性化を目的の一つとして実施していることをもっと明確化し、これに関する指標を目標達成度評価に設定するべきではないか。	円山公園音楽堂の活性化について本事業のみでどのように効果測定するか、又どのような指標により本事業による活性化の達成度を評価・数値化するのか、検討をする。 今後、円山コンサートを指定管理業務に組み込むことと合わせて検討を行う。

No.	事務事業名 [事業所管局]	評価委員会からの意見	指摘事項に対する見解と対応
2	木質ペレット需要拡大事業 (産業観光局)	本事業については、毎年の目標値が上位計画から割り戻して機械的に設定されているため変更できない、しない、ということではなく、林業振興という本事業の本来の主旨に立ち返り、林業振興の所管として、地に足のついた現実的に目指すべき目標に改めたうえで、取り組んでいくことが必要ではないか。	木質ペレットの需要拡大については、間伐材等の未利用材の有効活用を進めることで、適切な森林整備につながるものとして取り組んできたが、近年需要が伸び悩んでおり効果が限定的なため、大幅な事業の見直しを検討している。木質ペレットに限らず、木材の利用については、温室効果ガスの吸収源対策としても重要なため、令和2年度の次期地球温暖化対策計画の策定に合わせて、所管課と調整し、CO ₂ 削減効果を見据えながらも、林業振興の観点から効果的かつ現実的な数値の設定を行う。
		次期地球温暖化対策計画を策定する際は、本事業の現状を踏まえ、その位置付けや目標をどうするのかについて検討していただきたい。	令和2年度の次期地球温暖化対策計画の策定に合わせて、所管課と現状を踏まえ協議する。
		指標「補助により導入されたボイラー、ストーブにおける木質ペレットの消費量(見込み)」について、本事業の補助金により導入されたストーブの実績ではないもの(100トン(ボイラー2台分))を、本事業の実績値に加えるべきでない。実績値から除く必要がある。	以後、実績値から削除する。
		本事業ではボイラーやストーブの導入に係る費用に補助しているが、今後、木質ペレットの需要を拡大していくためには、導入後も木質ペレットを使い続けてもらうことを念頭に、ランニングコストに対して補助することも必要では。	ボイラー導入希望者に対して、ボイラーメーカー等が事前に導入後の費用シミュレーションを実施する等の事前説明を実施しており、ランニングコストを理解していただいた上で導入されていると考えているため、現時点では補助対象とすることを検討していない。 なお、これまで一般住宅や店舗等での木質ペレットの利用促進を図ってきたが、需要の伸び悩んでいることから、事業の見直しを行い、近年顕著に需要が伸びている木質バイオマス発電所への木質燃料(木質チップや原木丸太など)の供給に向けて取組を進めていく。
		木質ペレットについては一般的に流通しているものではなく、販売箇所も少ないのであろうことから、購入する際の利便性向上の取組も必要ではないか。	令和元年度中に、市内産木質ペレットの生産者に対して販売箇所の拡大について促す。

No.	事務事業名 [事業所管局]	評価委員会からの意見	指摘事項に対する見解と対応
3	看板等路上物件適正化事業 (建設局)	目標達成度評価における「申請件数」、「撤去・収容件数」の目標の設定について、対象道路を3年サイクルとしているのであれば、毎年の目標値を3年前の実績値を踏まえた設定とすることを検討してはどうか。	委員会の御意見、御指摘を踏まえ、目的達成度評価における目標の設定については、事業の進捗や取組の成果をより適切に反映したものとなるよう、見直してまいります。
		違法占用している物件が是正されることは負担の公平性の観点から問題である。道路占用料条例には一定の過料の規定があるということであるが、申請をより強く促すような方策を検討する必要があるのではないか。	今後とも、道路法や道路占用料条例など、道路を安全に使用していただくための各種制度について理解を求めていくとともに、違反物件の是正について、より効果的な指導方法を検討してまいります。
4	児童療育センター運営事業 (子ども若者はぐくみ局)	指標の設定については、検討の余地があるのでないか。現在の指標として設定している「在籍児童数」や「一日の平均利用者数」は、「増加することが良い指標」とされているが、他の施設で同様のサービスを受けることができるようになり、ニーズが減った結果として利用者数が減ったのであれば、それは良い事であるはずだ。どれだけニーズのある方々にアプローチし、必要とされる方に必要なサービスが、質、量ともに提供できているかということが大事であり、この点を測ることができるような指標が望ましい。	条件的に利用できる方々は乳幼児健診等を通じて一定把握しているが、これ以上に潜在的なニーズは多いと思われる。一方で、保護者の意向によるところもあり、潜在的なニーズを定量的に把握することは難しい。 上記を踏まえ、令和2年度の事務事業評価票を作成する際に、現在の指標から必要とされる方に必要なサービスが、質、量ともに提供できているか測ることができるような指標を研究する。
		潜在的ニーズの見通しへ難しいが、現在の利用者にとっては必要な事業。縮小や終了していく場合は丁寧な対応と説明が必要である。	事業の縮小、または終了する具体的な時期は決まっていないが、決定した際には丁寧な対応と説明を行う。